

2021 年度事業報告

【キーパーソン 21 の活動目的】

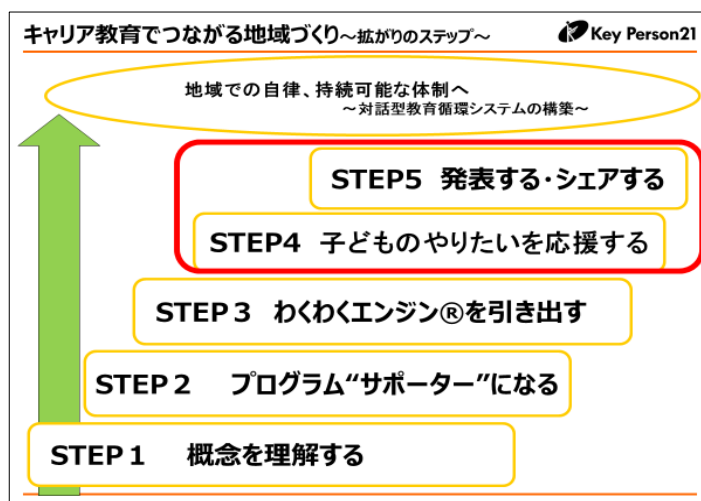
キーパーソン 21 は、主に小中学生から大学生世代に対して、様々な社会人との交流の場を作り、自分の将来について考えるきっかけを持つことで、一人ひとりが視野を広げ、社会へ旅立つことの自覚と自立心を醸成していけるよう寄与することを団体の目的としています。また、すべての世代が、わくわくしながら主体的に社会参加することを支援し、一人ひとりを最大限に活かす社会を創造することを目指します。

【2021 年度目標】

わくわくエンジン®があたり前の社会を目指して、中期事業計画で定めた 6 つの事業領域それぞれで礎となる事業モデル作りを継続しつつ、「人づくりから始まるサステナブルな社会」を創造します。

各地において、STEP1～5 の活動を継続、わくナビ講師養成、わくわくイノベーターの創出ノウハウの見える化および地域版わくわくエンジン EXPO の開催を目標とします。

1. 親・家庭領域 オンラインすきなもののビンゴプログラムの事業展開
2. 教員・学校領域 先生をわくわくさせるプロジェクトを推進
3. 大学生・大学領域 わくわくエンジンから人生を選択した若者モデルの確立
4. 企業人・企業領域 企業版 5 つの STEP アプローチによる関係性の革新（経営層）
5. 生きづらさ領域 なかわくにおいて 5 つの STEP による長期支援活動開始（小 6～中 3）
6. まちづくり領域 わくわくエンジン®があたり前のまちづくりを支援



※全ての領域において、ファンド戦略、広報戦略と連携します。

【2021 年度活動報告サマリ】

各地において、STEP1～5 の活動を目指し、地域チーム 8、パートナー 8 団体、他、学校や企業、行政、地域の子ども食堂など各地の活動主体との連携が増えた。2021 年度のプログラムを行った子どもの数は 2,676 名、2022 年 3 月末までの子どもの数は合計 55,842 名となった。

地域版わくわくエンジン EXPO の開催は困難であったが、川崎において地域で活動する方々をつなぐイベントを開催し、各地で活動するメンバーを繋ぐ一歩を行うことができた。

各領域の目標に対しては、

1. 親子向けに 2020 年度開発を開始した「オンラインですきなもののビンゴ」は、より多くの方に届けることができるようオンラインのわくわくナビゲーター育成のしくみを整え、「オンラインわくナビ育成コース」として講座化に成功し

た。

2.また、学校において児童生徒に自分で考え選択し行動することで、自分の人生の選択を行うためには、まずは先生方のわくわくエンジンの発見が優先されるという考えから「わくわく先生プロジェクト」のモデルを北海道千歳高校で行った。

3. 大学は、東洋大学と連携し、大学での学びと社会で仕事をするという乖離を埋めるプログラムとして行った。また、数名の若者モデルとして露出に関しては、中原わくわく学習会で子ども向きに仕事人として話をする事までを行った。

4. 企業と連携するステップ革新の提案は、困難であった。

5. 生きづらさ領域では、小学校 5～6 年生を対象に「わくわくエンジンから生まれる子どものやってみたい」を応援し子どもたちが実行した。報告会を開催し、子ども一人ひとりの成長をサポートすることのできるモデルとなった。

6.まちづくりでは、サマリで書いたように、教育からスタートしまちの人を巻き込む形が各地で実現した。

【事業展開図】



【ガバナンス】

組織改革・基盤強化の 2021 年度の活動項目に合わせて、監事による重点監査を行い、活動の進捗状況につき理事会と監事で議論を行い、組織基盤・ガバナンスの強化につなげていくことができた。

事業報告 目次（定款に則る）

【事業部門】

（１）特定非営利活動に係る事業

- | | |
|------------------------------|---|
| ① キャリアプログラムの開発、展開事業 | 1) <事業展開図⑦プログラム開発> |
| | 2) <事業展開図①親・家庭> |
| | 3) <事業展開図②教員・学校> |
| ② キャリアプログラムの普及啓発事業 | 1) わくわくナビゲーター養成講座および講師育成 <事業展開図⑦プログラム開発> |
| | 2) 全国への普及 <事業展開図⑥まちづくり> |
| | 3) 広報、コミュニケーション活動 <事業展開図⑪広報> |
| ③ 社会参加支援事業 | 1) 川崎市学習支援・居場所づくり事業（通称：なかわく/こすわく） <事業展開図⑤生きづらさ> |
| | 2) 川崎市寺子屋事業 <事業展開図①親・家庭> |
| ④ 人材育成を目的とした、企業、団体等への助言、研修事業 | <事業展開図④企業人・企業> |
| ⑤ 教育に係わる情報収集、調査研究及び発信事業 | <事業展開図⑪広報・⑫戦略> |
| ⑥ その他目的達成のために必要な事業 | 1) 会員力最大化 <事業展開図⑧会員力最大化> |
| | 2) 大学生応援/OBOG 会 <事業展開図③大学生・大学> |

（２）その他の事業

- ① 寄贈品、グッズなどの物品販売
- ② 著作、出版物の制作・販売
- ③ 会員のサークル活動支援事業

【管理部門】

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1) 財政基盤を構築する | <事業展開図⑨ファンド> |
| 2) 組織改革・基盤強化 | <事業展開図⑩組織改革・基盤強化> |
| 3) 戦略を立案する | <事業展開図⑫戦略> |

【事業部門】

（１） 特定非営利活動に係る事業

① キャリアプログラムの開発、展開事業

＜事業展開図⑦プログラム開発＞ ＜事業展開図①親・家庭＞ ＜事業展開図②教員・学校＞

収益金額：¥19,017,714 費用金額：¥12,511,672

1) プログラム開発＜事業展開図⑦プログラム開発＞

■ 21 年度のテーマ

6 領域のそれぞれを起点とした地域自律に向けた普及拡大

■ 21 年度の目標

＜普及拡大のための施策を打つ＞

・既存のわくナビの会員にプログラムの理解を深め、引き出し講座の受講者を増やす

・「オンライン親子で好きなものビンゴ」の事業化

■ 活動項目

＜わくナビ養成講座＞

① 対面のわくナビ講座を 新型コロナウイルス（COVID-19）に配慮しながら開催

▶ 10 回開催

・ビンゴ 体験&引き出し 6 回、メイン 3 回

・コミュニケーション トレーニング 1～3 を 1 回

② 「オンライン好きなものビンゴ」わくナビ養成講座を開催

・1～2 回開催予定

③ パートナー向けわくナビ養成講座

④ パートナーからの依頼に応じ開催

⑤ 認定委員会 9 月、2 月の 2 回開催予定（講師認定含む）

＜講師養成＞

① 対面わくナビ講師を養成する

② 級認定者を対象に各地域 2 名～3 名目標

＜プログラム開発＞

① オンライン版おもしろい仕事人の汎用化の検討

② オンライン版かっこいい大人ニュースの汎用化の検討

③ 先生わくナビプログラム

④ 寺子屋親子向け映像プログラム

■ 活動サマリ（どんな事をしたか？）

オンラインわくナビゲーター育成コース（旧：オンライン好きなものビンゴ）わくナビ養成講座を初開催。

2種類の講座と練習会で実践を積みながら約3か月で育成。講師、プロマネとスタッフ、オブザーバー8名の協力のもと推進。

＜プログラム開発＞

① オンライン版「おもしろい仕事人がやってくる！」を地域チームにおいても実践可能になることを想定しオンライン講座を構築した。チーム東京と連携して江東区立第四砂町中にて実施した。

② オンライン版「かっこいい大人ニュース」を、かっこいい大人がわくナビエンジンの要素を話せるような

形で、オンラインで開発。私立田園調布学園にて実施した。

- ③ 「わくわく先生プロジェクト」を北海道千歳高校で実施した
- ④ 川崎市の受託事業今井の寺子屋において、親子向け映像プログラム「YouTuber になってみた！」を開発した。

■実績（回数や参加人数などの実績値）

＜オンラインわくわくナビゲーター育成コース（旧：オンラインすきなものビンゴ）わくナビ養成講座＞

- ① 6名受講
- ② 1/27オンラインビンゴ体験会でスタート、4/19修了式まで約3か月で推進。
 - a) 骨子となる2回の講座 ①1/29基礎講座 ②3/5・12 引出し力強化講座
 - b) 会員を主たる対象に3ステップの練習会 ①オブザーバー ②地域チーム③会員親子ひとりあたり約10回の練習会を経験。ゴールデンウィークにデビュー。
 - c) 情報共有はメッセージとFacebookグループ、Dropbox活用

＜プログラム開発＞

- ① オンライン版おもしろい仕事人
チーム東京リーダーがプロマネとなり、まずオンラインで講座を開催。その後、10/15に江東区立第四砂町中にてプログラム実施。チーム東京の会員2名が仕事人として登壇した。
- ② オンライン版カッコいい大人ニュース
講師と連携してオンライン用マニュアルを制作。香港、上海、北海道、島根県など遠隔に住む方をふくめ8名の会員が、事前研修を受講の上で11/27に田園調布学園にてカッコいい大人として登壇。生徒40名。ブレイクアウトルームを活用し生徒達から質問も活発にでるなど相互交流の時間充実、個性あふれるカッコいい大人ニュースが完成。
- ③ 「わくわく先生プロジェクト」を11/2北海道千歳市産業振興部と千歳高校と連携し、千歳市における『イノベーション人材育成セミナー』とし、先生方への事前研修の上、北海道千歳高校国際流通科1～2年生の生徒160名を対象に実施。
- ④ 川崎市の受託事業今井の寺子屋において、親子向け映像プログラム「YouTuber になってみた！」を開発し、11/20、12/4、12/11今井小学校の体育館において親子を対象に実施。

2) 親/家庭向けプログラム実施＜事業展開図①親・家庭＞

■21年度のテーマ

子どもが主役！きっかけは、親とまちの大人の变化と成長

■21年度の目標

- ・地域学校協働本部によるまちづくりモデルの自律と展開に向けてのモデル改定
- ・家庭教育の課題解決に向けた、社会教育活動として親とまちの大人の变化の見える化

■活動項目

1. 有明地域の資金自立のための近隣企業・大学への協力者拡大へ
2. コミュニティスクール推進検討委員会でのモデル紹介
3. 他のモデル実施希望地域の展開支援
4. 親子向けオンラインすきなものビンゴの事業化

5. 寺子屋事業の親子向け体験学習実施

参照)「3. 社会参加支援事業 2) 川崎市寺子屋事業 活動項目3」

■活動サマリ（どんな事をしたか？）

1. 有明地域の資金自立のための近隣企業・大学への協力者拡大へ
 - 有明プロジェクト参加者（保護者・企業人）へ資金協力依頼推進
2. コミュニティスクール推進検討委員会でのモデル紹介
 - コミュニティスクール推進検討委員会メンバーの「有明プロジェクト」見学誘致
3. 他のモデル実施希望地域の展開支援
 - 豊島区・日野市への実施支援と有志・希望者へ相談支援
4. 親子向けオンラインすきなものビンゴの事業化
 - 親子で発見！わくわくエンジン®「オンラインですきなものビンゴ」の実施
5. 寺子屋事業の体験学習実施
 - 寺子屋今井 体験学習を実施
6. 豊島区立明豊中学校実施
 - 豊島区立明豊中学校：PTA 会長の要望をうけ相談しながら推進。
（豊島区の SDGs 次世代育成事業の一環として実施された）

■実績（回数や参加人数などの実績値）

1. 有明地域の資金自立のための近隣企業・大学への協力者拡大へ
 - 「有明プロジェクト」5 年目。有明小学校、有明西学園 6 年生 150 名、保護者サポーター 21 名
 - 三菱 UFJ 銀行とリコーリース（株）が寄付の上、参画。
2. コミュニティスクール推進検討委員会でのモデル紹介
 - 「有明プロジェクト」の見学者は、実施校 校長・副校長を含め、コミュニティスクール推進検討委員会メンバーである江東区教育委員会 教育長、地域教育次長、課長、係長など 5 名見学
3. 他のモデル実施希望地域の展開支援
豊島区、日野市での実施支援と会員向け相談会（キーパーソン 21 の日にて）
4. 親子向けオンラインすきなものビンゴの事業化
 - 家族で発見！わくわくエンジン®「オンラインですきなものビンゴ」の実施
 - 参加親子 23 組 56 名（春）／17 組 52 名（夏）→満足度 100%の効果獲得
5. 寺子屋事業の体験学習実施
 - 寺子屋今井 体験学習を実施
 - 3. 社会参加支援事業. 2) 川崎市寺子屋事業 <事業展開図①親・家庭>を参照
6. 豊島区立明豊中学校実施
 - 地域の保護者によるサポーター14 名誕生。2 年生 4 クラス 127 名に実施。通知表にわくわくエンジン®が表記された。2 年目継続へ。
 - 1 年生は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により次年度へ延期となった。

3) 学校におけるプログラム実施＜事業展開図②教員・学校＞

■ 21 年度のテーマ

先生をわくわくさせる！「わくわく先生プロジェクト」発動

[課題]忙しい、時間がない、先生自身元気がない、仕事に誇りを持ってない、高離職率

子どもの心がわからない、モンスターペアレンツ対応、いじめ対応、不登校対応

■ 21 年度の目標

- ・ 先生がわくわくエンジンを発見、自己理解「先生がわくわくする」
- ・ 先生自身の志に立ち戻る
- ・ 一人の大人として子どもと向き合い、従来の教育の「教える」から、子どもから潜在能力を「引き出す」力をつける

STEP1: 概念理解 事前研修

STEP2: 先生が自分のわくわくエンジンを発見する

STEP3: 児童生徒の前で自分を語る

=以下 2022 年以降=

STEP4: 自分もわくわくナビゲーターになる

STEP5: 児童生徒からわくわくエンジンを引き出す

STEP6: 児童生徒のやりたいを応援する

STEP7: 学校内や地域での発表の場として EXPO の開催

■ 活動項目

●わくわく先生プロジェクト（案）

- ・20 年プログラム実施校等を対象に検討する。
- ・新規のモデル校となる対象校も追加を検討する。

●学校実施：目的・ねらいを明確化して取り組む

- ・本部実施（ねらいを明確化する）
- ・企業の子ども応援プロジェクト、パートナー実施、地域チーム実施

●イベント

- ・キーパーソン 21 の日（5 月）、未来の先生フォーラム（8 月）等の教員交流
- ・わくわくエンジン EXPO 先生版（案「わくわく先生 全員集合！」）の開催検討

●研究調査

- ・わくわく先生プロジェクトの効果測定を検討
- ・学校モデル事例レポート化、イベント効果測定
- ・公教育から離れ自ら学校を設立した教員の事例、教員志望者減、離職率等の実態把握

●広報（広報チームと連携）

- ・各イベントの記事化
- ・動画を活用した事例の広報（youtube、メディア取材など）
- ・プレスリリース

●キーパーソン 21 アドバイザーとの連携

- ・アドバイザーとのミーティングや意見交換を継続

■ 活動サマリ（どんな事をしたか？）

① わくわく先生プロジェクト

- ・先生が仕事人として生徒達にわくわくエンジンを語る「わくわく先生プロジェクト」として提案するもコロナの影響もあり活動低迷。北海道千歳高校のみの実施となった。
しかし、ほぼすべての学校実施において、教員にわくわくエンジンの理解を深める事前研修は行うことができた。

② 学校実施：目的・ねらいを明確化して取り組む

- ・企業の子ども応援プロジェクト：コロナ禍で、研修や実施でオンラインを活用するなど配慮した。学校側のコロナ対応も慣れてきている。また ICT 教育の普及と共に端末を活用したプログラムアレンジも行った。

③ イベント

- ・未来の先生フォーラム：先生の会員と、教育に関心ある会員 8 名が中心となって参加。

・わくわく共育サロン：先生の会員により、会員同士が共に学び合える場を企画。

④ 研究調査

・実施なし

⑤ 広報（広報チームと連携）

・各イベントの記事化、プレスリリースを実施。

⑥ キーパーソン 21 アドバイザーとの連携

・実施なし

■実績（回数や参加人数などの実績値）

[本部実施]

- ・ コロナの影響により学校との調整に苦労するもなんらか発展性をもたせるよう工夫
- ・ 川崎中でわくわく先生プロジェクト予定するもコロナの流行で直前中止に。

（１） オンラインかっこいい大人ニュース：会員 8 名登壇、田園調布学園にて生徒 40 名参加。
1 人 1 台端末を使い、ブレイクアウトルームで大人と意見交換しかっこいい大人ニュースを制作。

（２） 企業の子ども応援プロジェクト

① カシオ計算機(株) … 3 校

- A) 渋谷本町学園 7 年生：オンラインでサポーターが参加してビンゴ
- B) 渋谷本町学園 6 年生：おもしろい仕事人新聞
- C) 広尾中 1 年生：おもしろい仕事人新聞

② シナネンホールディングス(株)2 校

- A) 港区立六本木中 オンライン研修、体育館と広い教室で実施
- B) 港区立白金の丘学園 21 年度初、研修も実施もリアル実施できた

③ WOWOW

- ・ 2 年ぶりに子どもたちが本社社屋に向かいプログラム実施できた

④ エヌアセット(株)

- ・ 恒例の社長による仕事人講演にわくわくエンジンのエッセンスが加わりパワーアップ

（３） キーパーソン 21 の日（５月）

- ・教育に関心の高い約 30 名の会員が参加し、先生をわくわくさせる活動を検討した。その後、未来の先生フォーラムへの活動に繋いだ。

（４） 未来の先生フォーラム（８月）@オンライン

- ・立石中の事例紹介、先生の会員の 3 名が登壇。
- ・参加約 20 名。
- ・当日夜、キーパーソン 21 の日（８月）としてプレゼン内容を紹介

（５） わくわく共育サロン

- ・初回 9/25「ふつうの主婦が見つけたやる気のエンジンのかけかた」読書会
- ・17 名参加
- ・ファシリテーターは先生の会員

[2021 年度事業実施実績一覧表（本部実施分）]

実施日	実施区分	対象団体名	対象	学年	生徒数	大人	サポーター	プログラム名	協賛企業
5/1	O	モニターキャンペーン(～5/16)	親子		28	28	46	オンライン版すきなものビンゴ	
5/6	R	なかわく学習室の新城教室	小学校	6	7	0	6	すきなものビンゴ1	
6/3	R	なかわく学習室の新城教室	小学校	6	0	0	7	すきなものビンゴ2	
6/16	R	寺子屋今井学習室	小学校	3・4	19	0	6	すきなものビンゴ1	
7/8	R	葛飾区立 立石中学校	中学校	3	115	0	16	すきなものビンゴ&お仕事マップ	
7/27	R	なかわく学習室	中学校		10	0	12	「おもしろい仕事人がやってくる！」 「すきなものビンゴ」	
7/28	R	なかわく学習室	中学校		10	0	16	「おもしろい仕事人がやってくる！」 「すきなものビンゴ」	
7/29	R	なかわく学習室の新城教室	小学校	6	0	0	10	お仕事マップ	
7/29	R	なかわく学習室の新城教室	中学校	3	4	0	8	面接対策プログラム (中学生向け個別アクションプログラム)	
7/30	R	なかわく学習室のサン・ライヴ教室	中学校	3	4	0	8	面接対策プログラム (中学生向け個別アクションプログラム)	
8/8	O	モニターキャンペーン(～8/22)	親子		29	22	36	オンライン版すきなものビンゴ	
9/1	R	学校法人東洋大学	大学	1	13	0	6	すきなものビンゴ&お仕事マップ	
9/24	H	渋谷区立渋谷本町学園中学校	中学校	1	66	0	22	すきなものビンゴ&お仕事マップ	カシオ計算機様
10/8	R	港区立六本木中学校	中学校	2	79	0	10	すきなものビンゴ&お仕事マップ おもしろい仕事人がやってくる！	シナネホールディング様
10/22	R	渋谷区立渋谷本町学園	小学校	6	93	0	0	「おもしろい仕事人がやってくる！」 &「おもしろい仕事人新聞」	カシオ計算機様
10/29	R	豊島区立明豊中学校	中学校	2	127	0	24	すきなものビンゴ&お仕事マップ	
11/4	R	関西大倉学園中学校	中学校	3	102	0	24	すきなものビンゴ&お仕事マップ	
11/11	R	江東区立有明小学校	小学校	6	48	0	24	すきなものビンゴ&お仕事マップ	
11/11	R	江東区立有明西学園	小学校	6	102	0	26	すきなものビンゴ&お仕事マップ	
11/12	R	今治市立吹揚小学校	小学校	6	66	0	22	すきなものビンゴ&お仕事マップ	
11/27	O	田園調布学園中等部	中学校	3	40	0		「かっこいい大人ニュース」オンライン	
11/29	R	港区立白金の丘学園	中学校	2	55	0	9	『おもしろい仕事人がやってくる！』 『すきなものビンゴ&お仕事マップ』	シナネホールディング様
12/3	R	広尾中学校	中学校	1	70	0	2	おもしろい仕事人がやってくる	カシオ計算機様
1/15	R	赤坂中学校	中学校	1	38	0	13	『おもしろい仕事人がやってくる！』 『すきなものビンゴ&お仕事マップ』	株式会社WOWOW 様
1/27	R	下作延小学校	小学校	6	64	0	14	『おもしろい仕事人がやってくる！』 『すきなものビンゴ&お仕事マップ』	
2/2	R	東洋大学国際学部国際地域学科	大学		10	0	7	おもしろい仕事人 & すきなものビンゴ	
3/22	R	くらし応援ネットワーク五女子ホーム	その他		0	8	2	すきなものビンゴ&お仕事マップ	
3/30	R	日本獣医生命科学大学	大学		8		4	酪農お仕事マップ	日本コカ・コーラ様
実施区分：O-オンライン、R-リアル、H-ハイブリッド					計	1,207	58	380	

②キャリアプログラムの普及啓発事業

<事業展開図⑦プログラム開発> <事業展開図⑥まちづくり> <事業展開図⑪広報>

収益金額：¥9,169,536 費用金額：¥7,311,072

1) わくわくナビゲーター養成講座および講師育成 <事業展開図⑦プログラム開発>

■21年度のテーマ

わくわくナビゲーターを価値化する

■21年度の目標

わくわくナビゲーターの学びと成長のためのコミュニティを全国のわくわくナビゲーターが参加できるよう、オンライン上につくる

■活動項目

●わくわくナビゲーター講師の育成

「すきなものビンゴ＆お仕事マップ」のわくわくナビゲーター養成講座の講師の育成

(2～5 名程度)

●わくわくナビゲーター2 級・1 級養成

●わくわくナビゲーター活動の仕組みの整備

- ・1 級養成の魅力の整理
- ・更新の仕組みの整備と運用の見直し
- ・改訂前の講座を受けたわくわくナビゲーターに改訂やプログラムの変更を伝える段取りの実行
- ・わくわくナビゲーターの学びと成長の場づくり (わくわくナビゲーターラボ * 仮称)

●わくわくナビゲーター養成講座の開催

- ・川崎本部開催 リアルとオンライン合わせて 15 回開催
(リアルかオンラインかは新型コロナウイルス (COVID-19) の状況に応じて判断)
- ・地域開催は普及の状況に合わせて開催する

●認定委員会の開催 (1 回)

- ・講師育成、わくわくナビゲーター養成講座の進め方などに関しての意見をいただく

■活動サマリ (どんな事をしたか?)

1. わくわくナビゲーター講師の育成

- ・講師育成は全国各地に講師を誕生させるべく、講師講座の仕組みとテキストを更新し、3 名に育成講座をスタートさせた。新潟と滋賀県草津で計画していた対面による、わくナビ講師の養成はコロナの影響でかなわなかった。座学の部分をオンラインで切り替えた。

2. わくわくナビゲーター養成講座の開催

- ・わくわくナビゲーター養成講座を 12 回 19 日分計画し、3 回 4 日分中止になったものの、武蔵小杉で 4 回・江東区で 2 回・北海道で 2 回・神戸で 2 回、対面で開催することができ、60 名のビンゴわくナビが誕生した。
- ・オンラインわくナビ育成コース (全 3 か月) がスタートし、6 名が受講を開始した。育成コースの受講資格はリアルビンゴ 2 級取得以上のわくナビとした。
(オンラインわくナビについてはプログラム開発の項目を参照)

3. 認定委員会の開催 (1 回)

- ・認定委員会を 1 回開催。オンラインわくナビの育成及び級認定について検討いただき、6 名が 1 級オンラインわくナビに認定された。

■実績 (回数や参加人数などの実績値)

2. わくわくナビゲーター養成講座の開催

すきなものビンゴ＆お仕事マップ 10 回開催 2 級 : 36 名 3 級 : 24 名

開催回	開催日	講座内容	詳細	参加人数	開催場所
125 回	4 月 16 日	体験・引き出し	体験	1 人	かわさき市民活動センター会議室
			引き出し	1 人	かわさき市民活動センター会議室
126 回	4 月 18 日	メイン	メイン	3 人	北海道
127 回	4 月 24 日	体験・引き出し	体験	6 人	川崎市総合自治会館

			引き出し	6 人	川崎市総合自治会館
128 回	4 月 24 日	体験・引き出し	中止	0 人	大阪【中止】
129 回	5 月 15 日	体験・引き出し	体験	6 人	川崎市総合自治会館
			引き出し	6 人	川崎市総合自治会館
	16 日	メイン	メイン	7 人	川崎市総合自治会館
130 回	5 月 29 日	体験・引き出し	中止	0 人	大阪【中止】
	30 日	メイン	中止	0 人	大阪【中止】
131 回	7 月 10 日	体験・引き出し	体験	2 人	北海道
			引き出し	2 人	北海道
	11 日	メイン	メイン	2 人	北海道
132 回	7 月 20 日	体験・引出	体験	5 人	川崎市総合自治会館
			引き出し	5 人	川崎市総合自治会館
	22 日	メイン	中止	0 人	川崎市総合自治会館
133 回	7 月 24 日	体験・引き出し	体験	12 人	大阪
			引き出し	12 人	大阪
	25 日	メイン	メイン	9 人	大阪
134 回	10 月 23 日	体験・引き出し	体験	9 人	江東区文化センター
			引き出し	9 人	江東区文化センター
	24 日	メイン	メイン	9 人	江東区文化センター
135 回	1 月 22 日	体験・引き出し	体験	7 人	江東区東大島文化センター
			引き出し	7 人	江東区東大島文化センター
	23 日	メイン	メイン	6 人	江東区東大島文化センター
136 回	3 月 6 日	体験・引き出し	体験	1 人	大阪(長田区研修に同席)
			引き出し	1 人	大阪(長田区研修に同席)
			延べ人数	134 人	

新規わくナビ ビンゴ & マップ	4 級	0 人	累計	8 人
	3 級	21 人	累計	63 人
	2 級	36 人	累計	170 人
	1 級	0 人	累計	18 人

2) 地域チーム/パートナーによるプログラム実施 <事業展開図⑥まちづくり>

■ 21 年度のテーマ

キャリア教育を軸にした持続可能なまちづくりを各地で加速させる

■ 21 年度の目標

- ・2020 年度開催したわくわくエンジン EXPO を各地域、団体で行うモデルづくり
- ・キャリア教育を軸にしたまちづくり、地域づくりを“やってみよう！”とアクションする人を増やす
- ・わくわくエンジン®がまちづくりにつながる事例発信（広報と運動）

■ 活動項目

【地域みんなで子どもを育む持続可能なまちづくりプロジェクトとして】

<新規向け>

- 地域での仲間づくり応援のための 60 分説明パッケージの開発と提供
(STEP ゼロのイメージ)
- 規模や資金等を加味したパートナーシップ提携だけでなく繋がりの方の仕組みの整理、提供

＜継続支援として＞

- 2020 年度開催わくわくエンジン EXPO 参加 6 地域への支援

（島根県江津市、鳥取県大山町、新潟県新潟市、滋賀県草津市、沖縄県浦添市、愛媛県上島町）STEP1～5 までの事例を持続可能な取り組みにするための支援を行う

- 地域チーム、パートナーへの継続のためのメニューの充実提案
- 地域との接点を増やし、各地、各団体、各人の状況、情報をキャッチする

＜地域チーム向け＞

- 地域チーム主体での持ちまわりによる、地域事例の水平展開、学び合いの場の定期開催（オンライン）

●新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により対面で行うワークショップだけでなくプログラム（おもしろい仕事人がやってくる講演版、かっこいい大人ニュース）が実施できるようなノウハウの提供

- 事務局との協働プロジェクトの提案、実施

＜パートナー向け＞

- フォローアップについての積極的な提案（オンライン＆リアル）

■活動サマリ（どんな事をしたか？）

2021 年 3 月わくわくエンジン EXPO により、まちづくり領域として STEP1～5 までの事例をつくることができた。2021 年度は、そのノウハウを全国他地域にも展開できるようにするための情報整理をし、やりたという地域への導入をおこなった。

■実績（回数や参加人数などの実績値）

- STEP ゼロとして、身近な人へキーパーソン 21 の活動を知らせるための説明用資料をノート付で作成。地域チームづくりをすすめたい会員への提供を行った。
- 人をつなげ、まちづくりを行う地域創生のキーパーソン「わくわくイノベーター®」の要素分析、活動開始から活動継続までのノウハウの取りまとめを行った。
- 規模や資金等を加味したパートナーシップ提携だけでなく繋がりを考える上で、有明モデルの事例をもとに STEP 2 で地域サポーターを誕生させるということを推進。2 地域は行政と 1 地域は PTA 協議会からの予算化で STEP1～3 の取り組みがすすんだ。
 - ・滋賀県草津市（草津市まちづくり課×（パートナー）認定 NPO 法人くさつ未来プロジェクト）
 - ・愛媛県今治市（教育委員会社会教育課）
 - ・兵庫県神戸市（PTA 協議会予算）

＜地域チーム＞

- 2021 年度 1 チーム（チーム大阪兵庫）誕生。合計 8 チームが全国で活動中。
- 団体のことを伝える役割をエバンジェリストとし、各地域チーム 1 名以上が説明会で話者にチャレンジし、認定された。プログラム実施前の打ち合わせ、事前オリエンテーションの充実に繋がった。
- STEP 3 プロジェクトの進め方のノウハウの共有。プロジェクトマネージャー講座としてオンラインで提供。受講人数 41 名。プログラム実施現場におけるプロジェクトを推進するための具体的なノウハウの提供を行った。進め方を理解しプロジェクトを推進する意欲が高まったと好評。また全地域チームでプロジェクトの予算化ができるようになった。このことは地域自立に向けての大きな要素となっている。

- コロナ禍で対面でのプログラム実施が困難となり、地域チームが提供できるプログラムを増やすためのトライアルとしてオンライン「おもしろい仕事人がやってくる」（講演プログラム）をチーム東京の協力のもと実施。

2022 年度各地域チームに水平展開するための資料作成を行い、「すきなもののビンゴ＆お仕事マップ」と合わせて実施することで、効果のあるプログラムとしての位置づけで展開できるようにする。

〈パートナー〉

- パートナーに対してフォローアップメニューの充実をはかった。6 既存パートナー全て提携継続。
 - ・(株)クリップアカデミー：個別塾のため、少人数でのプログラム実施についてのアドバイス
 - ・生活クラブ千葉：実施先職員に向けてのオリエンテーションサポート
 - ・ゴウツわくわく研究所：わくわくナビゲーターの養成を各地域でできる地域講師のモデルづくりスタート。
 - ・(株)植松電機：専門学校新入生向けプログラム実施サポート
 - ・認定 NPO 法人くさつ未来プロジェクト：①協働での草津市との取り組みをすすめた②くさつ未来プロジェクトが 3 年連続でプログラムを届けていた児童養護施設の職員に向けた研修を、滋賀県社会福祉協議会からの依頼でキーパーソン 21 が実施。職員研修とプログラム実施の連携をおこなった。
 - ・(株)感性労働研究所：プログラム開発進行中
- パートナーシップ提携新規締結（2 団体）
 - ・NPO 法人 MSP チャイルドドリーム基金
 - ・福岡外語専門学校

① パートナー向け実施分

日時			実施情報						
月	日	曜日	パートナー	団体名	区分/対象	学年	生徒数	大人	サポーター
6	5	土	KMP	児童養護施設湘南学園	その他		7	0	12
6	5	土	KMP	児童養護施設小鳩の家	その他		7	0	
6	13	土	KMP		その他		30	17	10
7	6	火	ゴウツ	江津高校	高等学校	1	57	0	19
7	22	木	KMP	KMP	その他		5	1	4
7	25	日	KMP	KMP			5		4
9	14	火	ゴウツ	江津中学校	中学校	1	72	0	24
11	13	土	KMP	KMP			4	4	4
11	15	月	KMP	玉川中学校	中学校	2	155	0	
11	16	火	ゴウツわくわく研究所	江津市立郷田小学校	小学校	6	13	0	6
11	23	火	生活クラブ千葉	リースタディ習	その他		0	15	3
12	11	土	KMP	KMP	その他		4	0	3
2	12	土	KMP	KMP	その他		3	2	4
3	1	火	ゴウツ	川波小学校	小学校	6	12	0	8
3	12	土	KMP	KMP	その他		3	3	4
3	22	火	MSP	くらし応援ネットワーク五女子ホーム	その他		0	8	2
合 計							377		107

②地域チーム向け実施分

日時			実施情報					
月	日	曜日	地域チーム	団体名	区分/対象	学年	生徒数	サポーター
5	20	木	にいがた	白根高等学校	高等学校	2	70	5
7	17	土	静岡	菊川市市民協働センター 中高生NPO体験セミナー	高等学校		75	10
7	30	金	沖縄	ベテルの夢	小学校		2	0
8	5	木	沖縄	ベテルの夢	中学校	1	3	1
8	7	土	静岡	森町社会福祉協議会 森町教育委員会 中高生ボランティア体験入門	中学校		15	3
10	15	金	東京	江東区立第四砂町中学校	中学校	1・2	136	0
10	15	金	にいがた	新潟市立 大形小学校	小学校	6	91	3
10	18	月	にいがた	新潟市立 大形小学校	小学校	6	63	3
10	24	日	北海道	千歳いりり			7	1
10	29	金	にいがた	新潟市立阿賀小学校	小学校	6	45	4
10	30	土	北関東	自由学園最高学部	大学	1	18	12
11	10	水	沖縄	ベテルの夢	小学校	5	2	1
11	18	木	北海道	札幌北中学校	中学校	2	290	6
11	25	木	湘南	寒川町立寒川東中学校	中学校	2	40	
12	2	木	北海道	札幌北中学校	中学校	2	0	6
12	5	日	北海道	道南学びフェス【函館】	小学校	4	20	
12	9	木	にいがた	木山小	小学校	5・6	24	3
12	9	木	静岡	富士川第二小学校	小学校	6	61	8
3	17	木	大阪兵庫	神戸市立長田	中学校	2	130	15
合 計							1092	81

3) 広報、コミュニケーション活動＜事業展開図①広報＞

■ 21 年度のテーマ

A「自分ごと」「自分たちごと」となる「物語化」の推進継続。自分たちが行っていることの社会性・ニュースバリューの意識と発信機会の増加

B イベントにて得られた資産を活用した、広報活動の加速、全領域への組み込み・連携

■ 21 年度の目標

A 個人にとっても、組織にとってもサステナブルであり、サステナブルな社会につながる 物語を適切なルート、方法で届けていく

B 広報開眼元年となった、EXPO で得られた資産（実行によって得られたノウハウ、コンテンツ資産、人、ネットワーク）を有効活用し、機を逃さないよう社会とのリレーションを築いていく

■ 活動項目

- 世の中・組織の状況が変わる中での、組織のリソース、優先順位を踏まえたアクション の整理と体制整備
- 効果的に広報を行うための戦略・目標・目的の最適化
- 発信情報、見せ方、発信方法の整理と発信
- 外部リソースを活用した、広報施策のレバレッジと実施～一歩前へ～
(実施を検討している施策群)
- ・著名人・インフルエンサーへのアプローチ
- ・わくわくエンジン EXPO に代表される地域の取り組みと子ども・大人たちの姿の発信
- ・現代若者像の発信：キーパーソン 21 の会員から
- ・自治体首長との対談・自治体連携の模索
- ・大手メディア・番組へのアプローチ
- ・地方メディアとの関係強化、後援依頼
- ・メディアとのリレーション構築～キーパーソン応援団とすべく～
- ・メディア以外のステークホルダーとのリレーション構築
- ・企業・企業団体へのアプローチ
- ・企業のサステナブルブランドに寄与する協賛企業の PR

- ・Instagramの活用
- ・書籍出版
- ・効果的なニュース・プレスリリースの発信
- ・note ベースでのオウンドメディアの構築
- ・Web サイトレスポンス化後の必要に応じた改修
- ・効果的な認知、コンバージョンを意識したランディングページの設置

■ 活動サマリ（どんな事をしたか？）

①メディアリレーション活動の実施

- ・記者クラブや、記者への直接アクセスにより、リレーションの獲得と記事化の達成

②パブリシティやステークホルダーに対する情報発信と提供、関係性作りの推進

- ・オウンドメディアにおける情報発信
- ・プレスリリースや、PR プラットフォームへの投稿、メルマガ、SNS 等、社会に対する発信・種まきの実施
- ・イベントや、社会活動ネットワークへの参加・コラボレーションを狙ったアプローチ

③ 全員広報マインド・そのための広報 OS の醸成、社会発信力を高めるための組織内活動

- ・リリースの設計、編集、配信、世の中の文脈との紐付け方など広報に必要なリテラシーを養うための活動を実施
- ・毎週定例のオープン広報ミーティングの実施
自組織の「売り込み」ではなく、社会課題×自組織のソリューションを意識
KP21 の文脈にあったブランドを意識した広報スタンスにて対応

■ 実績（回数や参加人数などの実績値）

①メディアリレーション

「NPO法人・地域 家庭の孤立防ぐセーフティネット」産経新聞(6/20)

「わくわく見つけよう 菊川で中高生セミナー事前学習会」(7/21)

「渋谷本町学園」ICT 教育ニュース(9/21)

「将来の仕事は親子で考えたよ」北海道新聞(7/21)

「私のわくわく考えよう」室蘭民報 (7/29)

「自分の好きから仕事を考える」富士ニュース (12/11)

「富士川二小 6 年生 将来の仕事を考える」静岡新聞 (12/15)

「キャリア体験型講座 ゲーム感覚で」庵原新聞 (12/18) 等

イベント開催地域の市役所等への記者クラブへのアプローチ

NHK 他、有力メディア記者、ディレクターとの関係性構築

②パブリシティやステークホルダーに対する情報発信と提供、関係性作りの推進

- ・PR タイムズ : [https://prtimes.jp/](https://prt看mes.jp/) (プレスリリース運営プラットフォーム) の NPO 無料配信枠 (通常料金 33,000 円/1 本) を獲得し、リリースを発信。発信したリリースの他メディアへの転載 (中央紙・大手雑誌社・有力 Web メディアニュース)

- ・ステークホルダーとの関係性を可視化する Web メディア coki : <https://coki.jp/>での掲載
オウンドメディア的にも活用し、KP21 の強みであるステークホルダーとの広いつながりを可視化

「2021 年度ステークホルダーを大切にしている法人大賞」を受賞

- ・ビズテリアクラブ (社会課題の解決に向けたリーダーが集まるコミュニティ) 等での PR と関係性構築
- ・大手出版社との出版模索、各事業領域に関連するメディア、企業等に対する掲載/コラボレーションのためのアプローチを実施

④ 広報 OS の醸成、社会発信力を高めるための組織内活動

- ・広報をテーマとした「キーパーソン 21 の日」の実施
- ・リリース設計、作成、一般記事執筆のトレーニング実施 (広報チーム)

- ・メディア掲載のフィードバック等を含めた会員向けオープン広報 mtg の開催
- ・地域チーム個別相談、提案資料ブラッシュアップのための相談会実施
- ・KP21 ホームページの改修（情報設計）

③社会参加支援事業 <事業展開図⑤生きづらさ> <事業展開図①親・家庭>

収益金額：¥ 20,311,178 費用金額 ¥ 23,113,769

1) 川崎市学習支援・居場所づくり事業（通称：なかわく/こすわく） <事業展開図⑤生きづらさ>

■21 年度のテーマ

生きづらさこそ社会変革のスタート！生きづらさを抱えた子どもの一人ひとりの脱皮感・成長感・変化変容を長期的にサポートする

■21 年度の目標

変化につながった子どもや学習サポーターの成長事例を毎年恒例の 3 月のお祝い会で発表

■活動項目

1. 川崎市の委託事業「（通称）なかわく」と自主事業の「（通称）こすわく」の学習支援居場所づくり事業を行う（8 年目）

なかわく 2 か所週 4 日開催

こすわく 1 か所週 2 日開催

●学習支援と居場所の機能を備えたオンラインのプログラムの充実

※新型コロナウイルス（COVID-19）収束後、リアル対面での学習支援が復活しても、オンライン

学習は並行して行う見込み

（1）オンラインによる学習支援と居場所機能を充実する

（2）学習支援の現場のメンバーによるわくわくエンジン®活用モデルを試行する

（3）中 3 生を対象に面接対策としてわくわくエンジン®発見プログラムを実施する

（4）小 6 生を対象にわくわくエンジン®発見プログラムによる長期的成長を支援する

STEP4/5 のワークシートの活用寄り添いモデルを開発（なかわく小 6～中 3）

（5）生きづらさを乗り越えた経験をもつ若者を「おもしろい仕事人がやってくる」の

プログラムにて話してもらう（2 か所）

（6）子ども、学習サポーターの変化変容の事例をシェアする

2. 生きづらさからの社会課題発見と対策を考える会を「キーパーソン 21 の日」において行う

3. こすわく事業への寄付確保と寄付者とのコミュニケーション強化

（1）継続寄付いただいている企業・グループ・個人など

（2）事業展開図⑨「ファンド・財務」との連携

■活動サマリ・実績■

1. 川崎市の委託事業「（通称）なかわく」と自主事業の「（通称）こすわく」の学習支援居場所づくり事業を行う（8 年目）

<なかわく活動報告>

■活動サマリ

①学習について

小学生はリアル対面の教室学習のみ、中学生は教室での学習とオンライン学習のハイブリッド学習を推奨し 1 回につき 2 時間の学習を行った。

②キャリア教育について

・新城教室と小杉教室の中高生対象に、夏に「おもしろい仕事人がやってくる」と「すきなもののビンゴ」と行った。

・新城教室の小学生には年間を通してわくわくエンジン®発見プログラムを行い、3/22 植松努さんをお招きして、小学生の発表と植松さんの講話を聴くイベントを行った。

・中 3 生は面接対策プログラムを 6 名に行った。

■活動実績

（1）サンライヴ教室

・卒業生 7 名（全員進学）

・中 1, 中 2 生（12 名 全員継続）

- ・小学生 4 名 (内 3 名継続、1 名は塾へ通うため退会)
- ・高校生 1 名 (継続)
- (2) 新城教室
- ・卒業生 5 名 (内 4 名進学)
- ・中 1、中 2 生 13 名 (全員継続)
- ・小学生 8 名 (全員継続)
- ・高校生 1 名 (継続)

<こすわく活動報告>

■活動サマリ

武蔵小杉の7階のわくわくステーションにおいて、学びたい意欲をもつが機会を持っていない子どもに、学習と英会話の学びの場を提供した。スタートしてから8年。

■実績

96回開室。のべ190名。

①こすわく学習

■活動サマリ

高校生の需要が高くなりつつあり、進学を希望する高校生の受け入れも始めた。
また、不登校生徒の昼間を受け入れも行った。

■実績

66回開室 (うち通常開室45回、学校にいけない子ども対象21回)

- ・卒業生 1 名 (社会人 仕事の都合で退会)
- ・高校生 2 名 (全員継続)
- ・中学生 3 名 (1 名は継続、1 名は塾に通うため退会、1 名は不登校支援を行い 4 月から学校へ復帰)

②こすわく英会話活動報告

■活動サマリ

Covid-19 の影響により、会話をするという性質から生徒の募集を控え、既存の生徒に対してのみ行った。ネイティブの先生と日本人の先生との 2 名体制。

■実績

- ・30回開室
- ・対象のべ34名

2. 生きづらさからの社会課題発見と対策を考える会を「キーパーソン 21 の日」において行う

キーパーソン 21 が解決できる生きづらさとは何なのか？会員の皆さんにとっての生きづらさとはどういう状況か、その原因や事象を紐解きながら、様々な場面や立場での生きづらさの解決に向けた意見交換を会員の方々と行った。

■活動サマリ

キーパーソン 21 の日！ 生きづらさって何だ？ ～生きづらさの正体を話し合ってみようを実施

■実績

2022年2月21日 開催

3. こすわく事業への寄付確保と寄付者とのコミュニケーション強化

※ 実施なし

2) 川崎市寺子屋事業 <事業展開図①親・家庭>

■ 21 年度のテーマ

主体的な学びの提供

■ 21 年度の目標

- ・学習教室の寺子屋先生の維持または増員をし、安定した運営の実施
- ・自分のわくわくエンジン®を生かして周りの役に立つことを考えるプログラムやわくわくエンジン®発動ストーリーの動画制作プログラムの実施

■ 活動項目

- 川崎市教育委員会より、6 年目となる寺子屋事業の委託を受け、中原区内にある川崎市立今井小学校で事業の実施。放課後学習教室と体験活動の二つが主な事業
- 1. 放課後学習教室は、子どもを対象に年間 26 回の水曜日の放課後に実施
子どもたちの放課後の居場所を提供と、地域の大人を中心とするスタッフによる学習支援
- 2. 体験活動は、親子対象に年間 6 回土曜日に実施。普段学校の授業では教わらないような学びの提供（新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により方法や回数の変更の可能性あり）

■ 活動サマリ（どんな事をしたか？）

川崎市の委託事業として寺子屋今井を開催

1. 放課後学習教室

3 年生から 6 年生の子どもを対象に、宿題のサポートや年中行事にちなんだ工作、読書の機会を提供した。

2. 体験活動

- ・JAXAの「コズミックカレッジ」プログラム実施
- ・「すきなもののビンゴ」プログラムの実施
- ・「YouTuberになってみた！」プログラムを開発実施
- ・いろえんぴつプロジェクトの演劇「グレイッシュとモモ」上演

■ 実績（回数や参加人数などの実績値）

1. 放課後学習教室

- ・実施回数 23回（新型コロナ感染拡大予防のための休止期間あり）
- ・子ども延べ参加者数 376名

2. 体験活動

- ・実施回数 6回
- ・子ども延べ参加者数 106名
- ・その他延べ参加者数（大人、未就学児） 204名

④ 人材育成を目的とした企業、団体等への助言、研修事業

<事業展開図④企業人・企業>

収益金額：¥ 599,850 費用金額：¥ 970

■ 21 年度のテーマ

企業とともに進む、「人づくりから始まるサステナブルな社会」へ

■ 21 年度の目標

1. 企業アプローチ 5 つのステップ推進
2. コンソーシアム構想の具現化～「社会課題」の明確化と協働仲間づくり

■ 活動項目

1. 企業アプローチ 5 つのステップ推進
企業の ESG 活動としての本格的な（経営者との）協業モデルの展開

- STEP1 わくわくエンジン概念理解、企業研修
- STEP2 わくわくエンジン理解チームづくり、わくナビ研修
- STEP3 学校など地域で実施する
- STEP4 子どもを職場体験などで受け入れる、子どもたちを応援する
- STEP5 地域で EXPO する

例) 地域子ども応援プロジェクトの発展

カシオ (CSR 推進室) とコカ・コーラ (CSR レポート) の事例を展開

●キーパーソン 21 との協働を通じての企業のブランド作りとは

- CSR としての地域貢献
- 活動を通しての社員の成長
- ESG 活動としてのサステナブルブランドの確立

2. コンソーシアム構想の具現化～「社会課題」の明確化と協働仲間づくり
人づくりからはじまるサステナブルな社会作りを目指して、コンソーシアムの具現化
3. 広報強化
企業と地域と連携して「社会課題」を解決する NPO としてブランド作り
4. 企業へのアドバイス・サポート活動
博報堂 H-CAMP への継続支援

■活動サマリ

1. 企業アプローチ 5 つのステップ推進

- ・企業の ESG 活動としての共創モデルのイメージをもった展開へ踏み出した。
- ・企業と地域に貢献する持続的な共創モデルとして、川崎市中原区においては富士通と、川崎市高津区においてはエヌアセットと、学校や行政とともに 2022 年度にスタートできるよう準備を行った。

2. 多様なステークホルダーを集めた交流会の実施

コンソーシアムを目指して企業連携の活動を進めようとしたが、結果的に 3/23 に開催したイベントは、企業連携を超えて、自治体、子どもをささえる多様なステークホルダーが多く集まり繋がり合う場となった。武蔵小杉にある川崎自治会館に全国からリアル対面で 61 名、オンラインで 18 名、合計 79 名が集まり交流した。(参照：<https://youtu.be/yZozHGvfCf8>)

3. 広報強化

企業と地域と連携して「社会課題」を解決する NPO として「人づくりからはじまるイノベティブでサステナブルな社会作り」を目指して、活動しながら主体的に共創造してくれる仲間の皆さまを想定して、Coki に取材してもらった。初回は、代表他理事と会員数名で KP21 の考えを記事化。それにつづいて、ユーグレナ CFO、エヌアセット社長、生活クラブ風の村の理事長等の社会課題を解決するわくわく活動する皆さんをメディア露出した。(参照：<https://coki.jp/company/keyperson21-org/>)

4. 企業へのアドバイス・サポート活動

博報堂 H-CAMP へ 2 回サポートした。

⑤教育に関わる情報収集、調査研究及び発信事業 <事業展開図⑪広報・⑫戦略>

収益金額： ¥ 0 費用金額： ¥ 0

■ 21 年度のテーマ

社会の課題へのソリューションとしてのアピール力をもつ

■ 21 年度の目標

社会に共感と理解とインパクトを与えられる調査研究と発信を行う

■ 活動項目

● 効果測定方法の検討

事業の 6 つの領域で抱える課題を調査研究、効果測定を行う。結果について関係各所に発信、提言する機会を探る

・コカ・コーラ財団のプロジェクトの地域活性としての効果測定を行う

・わくわくエンジン®を発見した大人の変化変容を調査研究する

・Web アンケートを行い、社会課題のデータを獲得し、そのソリューションをキーパーソン 21 が持っていることの確認と発信を行う

■ 活動サマリ

- ・21 年度の活動において、効果測定をはじめ、上記の 3 つの活動は実施できず。
- ・22 年度の活動の準備として、リバネスと協業で効果測定を検討開始

⑥その他目的達成のために必要な事業 <事業展開図⑧会員力最大化>

収益金額： ¥ 0 費用金額： ¥ 251,534

1) 会員力最大化 <事業展開図⑧会員力最大化>

■ 21 年度のテーマ

・新規会員、既存会員とも、誰一人取り残さない！

・会員継続率 100%、退会率 0%を目指して！

■ 21 年度の目標

・新規会員、既存会員がキーパーソン 21 での活動に迷わずに、具体的アクションを

起こしやすい環境を整備し、きっかけとなる機会を提供する

■ 活動項目

・オンライン説明会の定期開催（月 1 回ペース）

・会員コンシェルジュによる入会初期フォローの継続

・既存会員（個人・法人とも）との個別コミュニケーション実施

・スターターキットのバージョンアップ（興味関心別活動ガイドの追加）

・学び・交流・行動のきっかけの場として、キーパーソン 21 の日の毎月定期開催

・わくナビ・講師・エバンジェリスト等、会員がキーパーソン 21 内でできる役割の

要件と育成方法等を整理し公開する

■ 活動サマリ（どんな事をしたか？）

1. オンライン説明会の定期開催

オンライン説明会をほぼ月 1 回ペースで年間 12 回開催した。

2. 会員コンシェルジュによる入会初期フォローの継続

3. 既存会員（個人・法人とも）との個別コミュニケーション実施

会員コンシェルジュより、新規会員への入会初期フォロー、既存会員への個別フォローを実施した。

4. スターターキットのバージョンアップ

スターターキットわくわく別 2 パターン完成。5 月に会員向けホームページに追加公開。

5. キーパーソン 21 の日の毎月定期開催

6. 会員の学びと行動のきっかけ作りや交流の場として、「キーパーソン 21 の日」をほぼ毎月開催。

7. 会員入退会の管理

■実績（回数や参加人数などの実績値）

1. オンライン説明会の定期開催

- ・平日夜を中心に説明会をオンラインで説明会を定期開催し、エバンジェリスト挑戦者が説明を行った。
- ・新規エバンジェリスト 5 名誕生。

2. 会員コンシェルジュによる入会初期フォローの継続

新規入会会員へのコンシェルジュによるフォローを実施、希望に合わせてメッセージンググループ招待。

3. 既存会員（個人・法人とも）との個別メール実施

4. スターターキットのバージョンアップ

前年度に作成したスターターキット基本編に加え、会員のやりたいこと合わせ、より具体的・実践的な内容を追加することを目指して、「より多くの子どもたちへキーパーソン 21 のプログラムを届けたい」、「自分の身近な人や地域の人たちのわくわくエンジンを発見したい」という 2 つのパターンを作成した。

5. キーパーソン 21 の日の毎月定期開催

- ・キーパーソン 21 の日を毎月（総会開催月の 6 月と交流会実施した 3 月を除く）21 日の 20:00～21:30 に、6 領域の取り組み紹介や広報・ファンド・会員交流等をテーマにオンラインで開催した。

6. 会員入退会の管理

- ・2021 年度入会者 69 名、退会者 110 名。

2) 大学生応援/OBOG 会 <事業展開図③大学生・大学>

■21 年度のテーマ

わくわくエンジンをもとに進路選択することの人生における納得感と充実度の高い若者像をブランドとして発信していく

■21 年度の目標

わくわくエンジンをもとに生きる若者モデルをストーリーとともに社会に対して、発信する

■活動項目

- ・わくわくエンジン若者モデル発信（対外／対内（キーパーソン 21 の日！及び OBOG 会等））
- ・学生会員募集オンライン説明会（年 2 回程度）
- ・各地で開催するわくわくエンジン EXPO に現役学生会員、OBOG が登壇するサポートをする
- ・学生会員 OBOG 会の開催（毎年 12 月第 1 日曜日）

■活動サマリ（どんな事をしたか？）

年度当初の計画実行は叶わなかったが、伝統となりつつある会員 OBOG 会の企画実施により、多世代の交流が図られ、改めてキーパーソン 21 での学びの深さを体感し、横のつながりを創出した。

■実績（回数や参加人数などの実績値）

- ・2021 年 7 月 27 日～28 日学習支援・居場所づくり事業「中原わくわく学習会」にて、生きづらさの経験をもつ若者世代会員 2 名（内 1 名学生会員 OB）が中高生に向けて講演（生きづらさ領域内実施）
- ・2021 年 12 月 5 日第 3 回学生会員 OBOG 会開催
- ・認定 NPO 法人ドットジェイビーよりインターン生 1 名受け入れた。

（２）営利活動に係る事業

【その他の事業】

１）寄贈品、グッズなどの物品販売

特に活動計画なし

２）著作、出版物の制作・販売

特に活動計画なし

３）会員のサークル活動支援事業

特に活動計画なし

【管理部門】

１）財政基盤を構築する <事業展開図⑨ファンド>

■ 21 年度のテーマ

マンスリーサポーター制度の実装

■ 21 年度の目標

マンスリーサポーター 100 名獲得

■ 活動項目 ※については、広報領域と協働して進める

【ファンド領域】

・マンスリーサポーター制度のリリース

・募集用ランディングページ（LP）の作成※

・LP→決済→管理システム（Salesforce）の円滑な連携の構築

【親・家庭領域】

・親子向けオンラインビンゴを通じた潜在的寄付者層へのアプローチ※

・オンラインビンゴ参加者→会員/寄付者、わくわくナビゲーターへの導線構築

【教員・学校領域】

・「先生をわくわくさせるプロジェクト」への寄付・協賛の獲得※

【企業人・企業領域】

・「人づくりから始まるサステナブルな社会づくり」に共感してくださる企業へのアプローチ※

【生きづらさ領域】

・こすわくへの企業寄付・個人寄付の募集

■ 活動サマリ（どんな事をしたか？）

・主に活動実施したのは、企業/諸団体への寄付/助成金申請のみである。

・マンスリーサポーターは、制度の検討に留まった。

・非営利組織評価センターからグッドガバナンス認証を活用した寄付への取り組みの紹介を受けた

■ 実績（回数や参加人数などの実績値）

【企業・企業領域】

・Give2Asia より寄付

・コカ・コーラ財団 2022 年 6 月に活動報告を実施予定

・富士フイルムビジネスイノベーション 端数倶楽部より寄付

・リコーリースより寄付

・NKK シームレス鋼管より「こすわく」に寄付

・三菱 UFJ 銀行より有明 PJ に寄付

・サツドラホールディングスよりチーム北海道へ寄付

2) 組織改革・基盤強化＜事業展開図⑩組織改革・基盤強化＞

■ 21 年度のテーマ

わくわくすることをやれる組織、エクセレントな NPO に向けた基盤整備

■ 21 年度の目標

やらなければならないことは標準化・ルーチン化して手間をかけず当たり前を実施する

■ 活動項目

【ガバナンス】

- ・理事会と事務局の相互コミュニケーションによる経営視点の議論の活性化
- ・経営視点を踏まえた情報開示・情報発信の強化

【人事・労務】

- ・各領域ニーズから人の募集と円滑な引き継ぎのサポート
- ・人に関わる規程の継続整備と早期の業務委託契約締結、契約対象者拡大
- ・役割期待確認の期初・中間・期末実施をルーチン化できる仕組みの整備
- ・予算立案・業務配分・面談・契約・評価・報酬の仕組みの改良検討

【経理・財務】

- ・2020 年度決算における経理業務負担の軽減と前年度の不足・不備の補完
- ・2021 年度予算の期初振り分け実行（決算処理負担軽減、月次管理レベル向上、事業区分別や個別プロジェクトの予算管理等を目指す）
- ・月次の予算管理の継続実施とレベル向上
- ・経理スタッフ増員による体制強化
- ・地域チームにおける会計の管理強化（現金管理レベル向上、新規創設時の基準作り）

【総務】

- ・認定・条例指定の継続に向けた手順・スケジュール確認と対策実施・業務引継
- ・グッド・ガバナンス認証活用法の検討・実行（他領域と連携）
- ・各自の事務局業務の標準化・マニュアル化と複数担当体制の充実

【事業計画管理】

- ・「領域毎の年度戦略・計画策定、理事確認会、進捗管理」の仕組み継続
- ・中期事業計画の中間点検と必要に応じた見直し

【情報管理】

- ・紙文書の整理と保管ルールに則った管理の継続
- ・電子文書保存ルールに則った Dropbox 内文書の保存と整理の継続

【リスクマネジメント】

- ・新たな事業活動や外部との新たな契約に関するリスクマネジメント

■ 活動サマリ（どんな事をしたか？）

- ・ガバナンス 課題発生時に必要事項および監事からの指摘事項を検討し、理事会に報告実施
- ・人事/労務 役割期待確認の前に 20 年度末の振り返りを行い、事務局メンバーの 21 年度役割期待確認をスムーズに進行した。
人に関わる規程・規約・契約関係等や予算立案・業務配分・面談や役割期待確認等を見直し中で、2022 年度からは過去の問題を解消した仕組みで運用できるめどが立ちつつある。
年度末に 4 名の事務局スタッフを採用した。
- ・経理/財務 会計の仕組みは着実に整備されてきており、決算業務の迅速化・負担軽減・精度向上や予算管理レベルの向上が図られている。
- ・総務 文書管理およびマニュアルの整備の検討を試みたが、電子文書の管理や、アクセス権限の設定など、想定業務が広がり対応できていない。22 年度の課題とする。
- ・事業計画管理 担当理事と各領域の活動に関しては各 2 時間の検討会を実施して計画を立案した。その後、定期的に理事会で計画に対する進捗の確認を行った。

■実績（回数や参加人数などの実績値）

【ガバナンス】

- ・理事会を毎月 1 回定期開催（必要に応じて追加臨時開催）、事務局ミーティングを毎週 1 回定期開催し、各会議で重要議題を議論するとともに、事務局兼務理事や各領域担当の理事・事務局間での連携等を通じて情報共有を行った。

【人事・労務】

- ・事務局スタッフの退局等、業務量に対する人員不足に対応して、事務局スタッフ 4 名を採用した。
- ・人に関わる規程・規約・契約関係等について社会保険労務士の指導を受けながら改訂中で、2022 年度の早い段階でリリース予定。
- ・予算立案・業務配分・面談や役割期待確認等についても新たな仕組みを検討しており、2022 年度から導入・適用予定。

【経理・財務】

- ・決算業務のレベルアップと負担軽減、予算管理レベルの向上等に継続的に取り組み、精度向上や標準化が進んでいる。
- ・経理スタッフを 1 名⇒2 名に増員し、業務分担やチェック体制を強化した。
- ・地域チームを対象にチーム会計の説明会を実施し、地域チーム会計のレベルアップを図った。

【総務】

- ・認定・条例指定の継続に向けた準備、グッド・ガバナンス認証活用法の検討については、具体的な進展はなかった。
- ・各自の事務局業務の標準化・マニュアル化については、検討の結果、当面は見送ることにした。

【事業計画管理】

- ・領域毎に年度戦略・計画を策定し、毎月の理事会にて 4 領域ずつ重点施策について進捗を確認することがほぼ定番化した。

【情報管理】

- ・紙文書、電子文書とも保管・保存ルールに則った管理・整理を継続的にやっている。

【リスクマネジメント】

- ・外部と新規に契約を締結する際のリーガルチェックと承認の仕組みを明確にし、その仕組みに基づき、契約チェックを実施した。

3) 戦略を立案する＜事業展開図⑫戦略＞

■21 年度のテーマ

「人づくりから始まるサステナブルな社会」を目指す NPO としてブランドを打ち出す（事業・広報・ファンドの施策の拠り所となる中長期の戦略軸を作り、領域毎の戦略と整合

性を取り、推進管理していける状態を作る）

■21 年度の目標

- ・わくわくエンジン®が当たり前の社会のゴールイメージを明確にする
- ・ゴールイメージを実現するための問題の構造や解決手順をクリアにし、キーパーソン 21 が注力すべき活動のポイントを明確にする
- ・学校教育、家庭教育、企業・行政等との協働を具現化する

■ 活動項目**【広報戦略】**

外部のコンサルタントの支援を受けながら、メディア露出を増大し、ブランドイメージを確立していく

【組織戦略】

外部のコンサルタントの支援を受けながら、以下の手順で組織づくりの戦略を策定する

1. 組織使命（ミッション・ビジョンの再定義、ゴールイメージ図の作成）
2. 問題構造（実態から問題の構造を把握する）
3. 問題解決仮説（コレクティブ・インパクト・アプローチ）
4. 成果目標（ロジックモデルの作成）
5. 財務基盤（ファンドレイジング・プラン作成）
6. 組織基盤（組織構造改善、チームビルディング、人材能力向上）

【事業戦略】

・わくわくイノベーター養成に着手する

■ 活動サマリ（どんな事をしたか？）

- ・【広報戦略】については「2. キャリアプログラムの普及啓発事業 1) 広報、コミュニケーション活動」に参照
- ・【組織戦略】のキーパーソン 21 のロジックモデル作成については大詰め段階。
- ・【事業戦略】のわくわくイノベーター養成については調査がおおむね終了した。

■ 実績（回数や参加人数などの実績値）**【広報戦略】**

- ・「2. キャリアプログラムの普及啓発事業 1) 広報、コミュニケーション活動」に記載。

【組織戦略】

- ・ 外部コンサルタントの支援を受けて、事業領域別のロジックモデルを作成し、それらを統合することにより、キーパーソン 21 として統一のロジックモデルを策定することを目指してワークショップを 5 回実施してきた。現在最終とりまとめ段階で完成間近。

【事業戦略】

- ・ わくわくイノベーター養成のプログラム化を目指して、モデル人材をピックアップし、その方々へのヒアリングとヒアリング結果の整理・分析により重要要素の抽出等を実施した。

以上